

彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, February, 2008

課長 関 勉 T. Seki

幹事 松本敏一 T. Matsumoto 幹事 佐藤裕久 H. Sato

2月の状況 (佐藤)

☆ 17P/Holmes (写真 a)

2月10日、熊本県南小国町の宇都宮章吾氏からOAA彗星課メーリングリスト(以下 oaa-comet ML)に「熊本・阿蘇の宇都宮です。日中よりよく晴れていました。月明かりはあるものの透明度もよく、17Pは肉眼でも丸く淡くみることができました。3.6cm双眼鏡では、コマ外縁はわからなくなり、以前より小さく見えます。…」との報告があった。また、芸西天文台の関課長から「17Pは西に傾いて高知市の光害の影響を受けるようになりました。しかし空は可也暗く、17Pを辛うじて肉眼で観測しました。…M33が7等星で辛うじて肉眼で見えますが、それより多少見やすい感じです。…」、さらに29日には、「昨夜久しぶりに17Pを観測しました。余りにも淡く拡散して、もはやF3位の光学系では、コマは写りません。10×70mmの双眼鏡で観測しました。肉眼では眼をこらして、尚、斜めに見ると幽かにそれらしい光芒があります。」との報告があった。暗く条件の良い場所で辛うじて肉眼で見えているようだが、肉眼で捉えるのはかなり厳しくなってきたようである。

眼視による観測が次のように報告されている。

17P/Holmes

2008	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer
Feb.	3.41	5.7	65'	1	-	-	5/5	4/5	10×7cmB	関 勉
	7.41	5.9	100	1	-	-	4/5	4/5	10×7cmB	関 勉
	7.47	4.5	60	2	-	-	3/5	3/5	12×3.6cmB	宇都宮章吾
	10.44	5.5	120	1	-	-	3/5	4/5	18×3.5cmB	張替 憲
	10.46	4.5	60	2	-	-	4/5	2/5	12×3.6cmB	宇都宮章吾
	10.50	6.5	80	1	-	-	4/5	4/5	Naked-eye	関 勉
	28.44	6.5	1.3°	0	-	-	4/5	4/5	10×7cmB	関 勉

☆ 8P/Tuttle

2月7日、宇都宮章吾氏は、oaa-comet MLに17Pの報告とともに「…8Pは、見納めかもしれません。」と報告されたが、10日「…8Pは、低空で大気減光の中に、微かに見えていました。」と観測された。これが見納めとなったようである。

眼視による観測が次のように報告されている。

8P/Tuttle

2008	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer
Feb.	4.40	8.0	5'	7	-	-	4/5	4/5	60×20cmR	関 勉
	7.45	8.0	6	3	-	-	2/5	2/5	25×15cmB	宇都宮章吾
	8.40	8.6	5	7	-	-	4/5	4/5	60×20cmR	関 勉
	10.44	8.0	5	3	-	-	2/5	2/5	25×15cmB	宇都宮章吾

☆ 46P/Wirtanen

眼視による観測が次のように報告されている。

46P/Wirtanen

2008	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer
Feb.	4.42	9.0	4'	6	-	-	4/5	4/5	60×20cmR	関 勉
	7.46	8.6	4	4	-	-	3/5	3/5	16×7cmB	宇都宮章吾
	10.41	9.5	4	5	-	-	3/5	4/5	49×32cmL	張替 憲
	10.45	8.6	4	5	-	-	4/5	2/5	16×7cmB	宇都宮章吾

☆ C/2008 C1 (陳-高:Chen-Gao) (写真 b)

2月3日朝、筆者から oaa-comet ML に「New Object XM08AA」と題し、「NEPCP に彗星状の天体が掲載されています。…XM08AA [2008 Feb. 02.6 UT. R. A. = 23 11.5, Decl. = +62 11, V = 17.0] Updated Feb. 2.93 UT [1 nighter] C42 (Xingming Observatory)での発見です。」とともに 204 Luca Buzzi による画像を紹介した。

同日午後、東京都武蔵村山市の佐藤英貴氏から、oaa-comet ML に「星明(C42)での観測では、12等のようなのですが、Buzzi 氏の写真を見ると大きく広がった姿というわけではなさそうですね。せっかく観測しやすい位置にいるのに、関東はこの雪空。少し恨めしいです。」との書き込みがあった。さらに、宇都宮市の鈴木雅之氏から、「今日午後の IAUC と MPEC で、C/2008 C1 (Chen-Gao)になりましたね。撮影してみました。今日は望遠鏡が混んでいてなかなか空きませんでした。恒星に接近中でした。」のコメントと位置観測報告があった。

4日、埼玉県上尾市の門田健一氏からは、「3日(日)の夕方は、雪が止んで曇天でした。夜半ごろから晴れてきましたので、一旦明け方まで仮眠をとり、低空の C/2008 C1 を狙いました。高度 15 度ほどの低空で、悪シーイングによりボケボケでしたが、しばらく撮像を続けていると、測定可能な彗星像が得られました。集光して淡いコマが広がっている姿でした。まずまずのシーイングだった 10 分ほどの時間を過ぎると、昇っているにも関わらず、ボケボケ像に戻りました。」とのコメントがあった。

IAUC 8915 等による発見状況は次のとおりであった。

中国のアマチュア天文家、陳韜(Tao Chen:江蘇省蘇州市)は、高興(Xing Gao:新

疆ウイグル自治区ウルムチ)が2月1日、南山の星明天文台で新星搜索のコース上に7cm、F.1. 200mm F/2.8の広角写真レンズ(+ Canon 350D カメラ)で写した CCD イメージから彗星を発見した。

眼視による観測が次のように報告されている。

C/2008 C1 (Chen-Gao)

2008	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Feb.	10.43	12.5	1.5'	3	-	-	3/5	4/5	78×32cmL	張替 憲	*

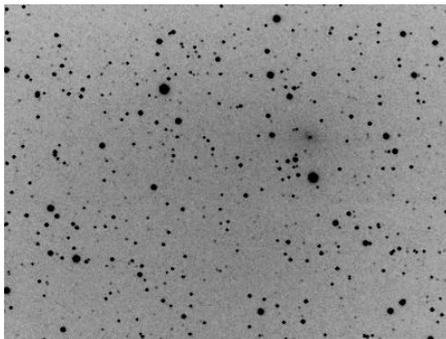
* 星図と照らし合わせながら予報位置にやっと朦朧とした光芒を確認しました。

その他2月中に発見・検出された彗星は次のとおり。

☆ P/2007 VQ₁₁ (Catalina) 2月1.1日 UT、Catalina のイメージから A. Boattini によって少し拡散した天体が発見された。T. Spahr によって、2007年11月と12月の観測と同一視され、Catalina スカイサーベイによって発見された小惑星状の天体 2007 VQ₁₁ と11月6日、紫金山天文台 Xu-Yi 観測所で観測されたものとリンクされた。(IAUC 8914, 2008 Feb. 1)

☆ P/2008 C2 = P/2000 U6 (Tichy) 1月11日及び2月3日 UT、M. Tichy と J. Ticha は、Klet 天文台の1.06-m KLENOT 望遠鏡で得た CCD 画像から P/2000 U6 (Tichy) を検出した。B. G. Marsden は211個の連結軌道を計算した。MPC 54167 の予報に対する修正値は $\Delta(T) = +0.16$ day であった。(IAUC 8917, 2008 Feb. 5)

その他比較的明るい彗星は、29P/Schwassmann-Wachmann、70P/Kojima、93P/Lovas、192P/Shoemaker-Levy などであった。



(写真 a) 17P/Holmes 2008, 02, 07



(写真 b) C/2008 C1 (Chen-Gao) 2008, 02, 07

22h 30.0m-40.0m (JST) exp. 60sx7T0A130+CCD 21h 48.3m-22h 03.0m (JST) exp. 60sx8 T0A130+CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏 三重県伊賀市上野 田中利彦氏